

平成20年1月10日

薬事・食品衛生審議会
食品衛生分科会長 吉倉 廣 殿

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会
農薬・動物用医薬品部会長 大野 泰雄

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会
農薬・動物用医薬品部会報告について

平成19年12月6日厚生労働省発食安第1206004号をもって諮問された、食品衛生法（昭和22年法律第233号）第11条第1項の規定に基づくアゾキシストロビンに係る食品規格（食品中の農薬の残留基準）の設定について、当部会で審議を行った結果を別添のとおり取りまとめたので、これを報告する。

(別添)

アゾキシストロビン

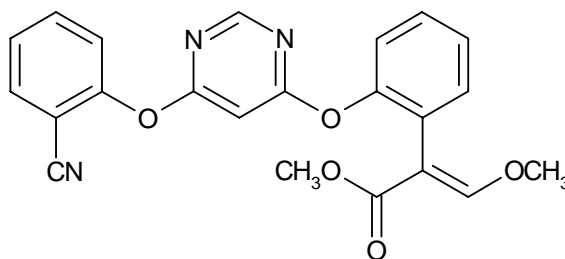
1. 品目名：アゾキシストロビン (Azoxystrobin)

2. 用途：殺菌剤

ストロビルリン系殺菌剤である。エネルギー生成に重要な役割を果たしているミトコンドリアの電子伝達系の中のコハク酸-CoQ リダクターゼ間の電子伝達を阻害することにより作用すると考えられる。

3. 化学名：メチル= (E) -2- {2- [6- (2-シアノフェノキシ) ピリミジン-4-イルオキシ] フェニル} -3-メトキシアクリラート

4. 構造式及び物性



分子式 $C_{22}H_{17}N_3O_5$
分子量 403.4
水溶解度 6.0 mg/L (20°C)
分配係数 $\log_{10}Pow=2.5$ (20°C)

(メーカー提出資料より)

5. 適用病害虫の範囲及び使用方法

本薬の適用病害虫の範囲及び使用方法は以下のとおり。

なお、本剤は以前の改正において、申請者から、「国外で使用される農薬等に係る残留基準の設定及び改正に関する指針について」(平成16年2月5日付け食安発第0205001号)に基づき、コーヒー豆に設定されている残留基準の変更が要請されたことから、海外における使用方法も記載している。

(1) 国内における使用方法

①20.0%アゾキシストロビン水和剤（フロアブル）

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	アゾキシストロビン を含む農薬の 総使用回数
小麦	紅色雪腐病	原液	4～8mL/ 乾燥種子 1kg	は種前	1回	種子吹き 付け処理	4回以内 (種子への処 理は1回以 内、は種後は 3回以内)
	うどんこ病 赤さび病	2000～ 3000倍	100～ 200L/10a		3回以内	散布	
だいず	紫斑病		16～ 24倍	100～ 400L/10a	収穫7日前まで		2回以内
		腐敗粒 べと病		100～ 400L/10a			
	あずき いんげんまめ	炭疽病	60～ 200L/10a				
さやえんどう	菌核病 褐紋病 灰色かび病	2000倍	100～ 400L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
実えんどう さやいんげん	灰色かび病						
未成熟そらまめ	さび病			収穫3日前まで			
オクラ	うどんこ病			収穫前日まで	2回以内		
エンダイブ	菌核病			収穫21日前まで	1回		1回
きゅうり	うどんこ病 べと病	1500～ 2000倍	100～ 400L/10a	収穫前日まで	4回以内	散布	4回以内
	灰色かび病 菌核病	1500倍					
	褐斑病 炭疽病	2000倍					
にがうり	うどんこ病 べと病、炭疽病				3回以内		3回以内
うり類 (漬物用)	うどんこ病 つる枯れ病 べと病、炭疽病	1500～ 2000倍		収穫7日前まで	4回以内		4回以内

①20.0%アゾキシストロビン水和剤（フロアブル）（つづき）

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	アゾキシストロビン を含む農薬の 総使用回数			
ズッキーニ	うどんこ病	2000 倍	100～ 400L/10a	収穫前日まで	4 回以内	散布	4 回以内			
メロン	うどんこ病 つる枯れ病 べと病									
すいか	つる枯病 炭疽病									
トマト	葉かび病 灰色かび病									
なす	うどんこ病 すすかび病									
ピーマン	灰色かび病									
たまねぎ	灰色腐敗病									
葉たまねぎ	べと病							収穫 3 日前まで	3 回以内	3 回以内
らっきょう	さび病							収穫 7 日前まで	4 回以内	4 回以内
ねぎ	さび病									
わけぎ	べと病			収穫 3 日前まで	2 回以内		2 回以内			
あさつき	黄斑病 黒斑病									
にら	白斑葉枯病			収穫 14 日前まで	2 回以内		2 回以内			
にんにく	さび病			収穫 7 日前まで	3 回以内		3 回以内			
しろな	白さび病			収穫 14 日前まで	1 回		1 回			
だいこん				3 回以内	3 回以内					
かぶ				2 回以内	2 回以内		2 回以内			
畑ワサビ (花及び花茎を除く)										
キャベツ	菌核病			収穫 7 日前まで	4 回以内		4 回以内			
はくさい	べと病 黒斑病 白さび病									
非結球あぶらな科葉菜類 (ただし、しろな、チ ンゲンサイを除く)	白さび病	収穫 21 日前まで	2 回以内	2 回以内						
パセリ	うどんこ病	収穫 45 日前まで	1 回	1 回						
みつば	灰色かび病	収穫 14 日前まで 但し、伏せ込み栽培は伏せ込み前まで								

①20.0%アゾキシストロビン水和剤（フロアブル）（つづき）

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方 法	アゾキシストロビン を含む農薬の 総使用回数		
みょうが （花穂）	紋枯病	2000 倍	3L/m ²	収穫 3 日前まで	2 回以内	土壌灌注	2 回以内		
みょうが （茎葉）				みょうが（花穂）の 収穫 3 日前まで 但し、花穂を収穫 しない場合にあって は開花期終了まで					
しそ	斑点病		100～ 400L/10a	収穫前日まで	2 回以内	株元散布	2 回以内		
クレソン				収穫 21 日前まで	3 回以内		散布	3 回以内	
葉ごぼう	うどんこ病			1 回	1 回	散布		1 回	
こおにたびらこ	菌核病						収穫 30 日前まで		
ははこぐさ				葉枯病	収穫 7 日前まで	4 回以内	散布	4 回以内	
せり	収穫 3 日前まで								
セルリー	菌核病			4 回以内	収穫 7 日前まで	4 回以内	散布	4 回以内 (土壌灌注は 2 回以内)	
非結球レタス									灰色かび病 べと病
レタス	ビッグペイン病	3L/m ²		収穫 30 日前まで	2 回以内	土壌灌注			
いちご	うどんこ病	1500～ 2000 倍		100～ 400L/10a	収穫前日まで	苗床 4 回以内	散布	7 回以内 (苗床では 4 回以内、 本圃では 3 回以内)	
	炭疽病	2000 倍							
	灰色かび病	1500 倍							
	うどんこ病	1500～ 2000 倍	本圃 3 回以内						
	炭疽病	2000 倍							
	灰色かび病	1500 倍							
アスパラガス	茎枯病 斑点病 褐斑病	2000 倍	4 回以内	4 回以内	4 回以内	4 回以内			
	葉腐病 褐斑病	1500 倍					3 回以内	3 回以内	4 回以内 (灌注は 1 回以内、 散布は 3 回以内)
		根腐病							
てんさい	根腐病	500 倍	ペーパーポット 1 冊 当たり 1L(3L/m ²)	定植前	1 回	苗床灌注			

①20.0%アゾキシストロビン水和剤（フロアブル）（つづき）

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方 法	アゾキシストロビン を含む農薬の 総使用回数
茶	炭疽病 輪斑病 新梢枯死病 (輪斑病菌による) もち病	2000 倍	100～ 400L/10a	摘採 14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内

②10.0%アゾキシストロビン水和剤（フロアブル）

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方 法	アゾキシストロビン を含む農薬の 総使用回数		
なし	黒星病 黒斑病 輪斑病	1000～ 1500 倍	200～ 700L/10a	収穫前日まで	5 回以内	散布	5 回以内		
	うどんこ病 炭疽病	1000 倍		収穫 45 日前まで				3 回以内	3 回以内
ぶどう	黒とう病 灰色かび病 べと病 枝膨病 晩腐病 褐斑病 さび病				収穫前日まで				
	おうとう						灰星病 褐色せん孔病		
							もも ネクタリン		
いちじく	そうか病 疫病 さび病				収穫前日まで				
すもも	灰星病 すす点病								
うめ	黒星病				1500 倍				
パッションフルーツ	円斑病 疫病				1000 倍				

②10.0%アゾキシストロビン水和剤（フロアブル）（つづき）

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方 法	アゾキシストロビン を含む農薬の 総使用回数	
かき	うどんこ病 落葉病 炭疽病 黒点病	1000 倍	200～ 700L/10a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内	
りんご (ふじ、王林、 ジョナゴールド、 つがる、千秋、 さんさ、紅玉、 シナノスイート、 鼎林、涼香の季節)	うどんこ病			収穫 45 日前まで				
びわ				収穫 7 日前まで				
マンゴー	炭疽病				収穫前日まで		1 回	1 回
グアバ (果実)					収穫 7 日前まで		3 回以内	3 回以内
ピタヤ	炭腐病				収穫前日まで			

③8.0%アゾキシストロビン水和剤

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方 法	アゾキシストロビン を含む農薬の 総使用回数
稲	いもち病 紋枯病 穂枯れ (ごま葉枯病菌)	1000～ 1500 倍	100～ 200L/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内 (育苗箱散布は1回以 内、本田では3回以内)
	稲こうじ病 穂枯れ (すじ葉枯病菌) 変色米 (カーブリア菌) 変色米 (エビコッカム菌) 変色米 (アルタナリア菌)	1000 倍					
	いもち病 紋枯病	原液	120～150mL/10a			空中散布	
		8 倍	800mL/10a				
		30 倍	3L/10a				
		8 倍	800mL/10a				
	300 倍	25L/10a	無人ヘリコプター による散布				
			散布				

④1.5%アゾキシストロビン粒剤

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方 法	アゾキシストロビン を含む農薬の 総使用回数
稲	紋枯病	4kg/10a	出穂 10～30 日前	3 回以内	散布	4 回以内 (育苗箱散布は1回以 内、本田では3回以内)

⑤0.6%アゾキシストロビン粉剤

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	アゾキシストロビン を含む農薬の総 使用回数
稲	紋枯病 穂枯れ (ごま葉枯病菌)	4kg/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内 (育苗箱散布は 1 回以内、本田では 3 回以内)

⑥4.8%アゾキシストロビン・40.0%TPN 水和剤 (フロアブル)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	アゾキシストロビン を含む農薬の 総使用回数	TPN を 含む農薬の 総使用回数
きゅうり	べと病 うどんこ病 褐斑病 炭疽病 灰色かび病 菌核病 黒星病	1000 倍	100～400 L/10a	収穫前日まで	4 回以内	散布	4 回以内	10 回以内 (土壌灌注は2回 以内、散布及びく ん煙及びエアゾル 剤の噴射は合計 8 回以内)
かぼちゃ	うどんこ病 べと病			収穫 7 日前まで	3 回以内			3 回以内
メロン	べと病 うどんこ病 つる枯病			収穫 3 日前まで	4 回以内			5 回以内
すいか	炭疽病 つる枯病							

⑥4.8%アゾキシストロビン・40.0%TPN水和剤（フロアブル）（つづき）

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アゾキシストロビンを含む農薬の総使用回数	TPNを含む農薬の総使用回数		
トマト	疫病 葉かび病 炭疽病 灰色かび病	1000倍	100~400 L/10a	収穫前日まで	4回以内	散布	4回以内	4回以内 (土壌灌注は2回以内)		
ピーマン	斑点病 うどんこ病				3回以内			3回以内		
なす	すすかび病 うどんこ病 褐色腐敗病 黒枯病				4回以内			4回以内		
はくさい	べと病 白斑病 黒斑病 白さび病			収穫7日前まで	2回以内			4回以内	3回以内 (は種又は定植前の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)	
だいこん	白さび病			収穫45日前まで	3回以内				3回以内	
にんじん	黒葉枯病 斑点病			収穫21日前まで	2回以内				2回以内	5回以内 (種子への吹き付け処理は1回以内)
たまねぎ	灰色かび病 べと病			収穫7日前まで	4回以内				4回以内	6回以内
ねぎ	べと病 さび病 黒斑病			収穫14日前まで	2回以内					3回以内 (土壌灌注は2回以内、散布は2回以内)
にんにく	さび病			収穫7日前まで	3回以内					3回以内

⑦18.2%アゾキシストロビン・11.3%ジフェノコナゾール水和剤（フロアブル）

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アゾキシストロビンを含む農薬の総使用回数	ジフェノコナゾールを含む農薬の総使用回数
てんさい	褐斑病	1000~2000倍	100~400 L/10a	収穫21日前まで	3回以内	散布	4回以内 (灌注は1回以内、散布は3回以内)	3回以内
	葉腐病	1000倍						

(2) ブラジルにおける使用方法

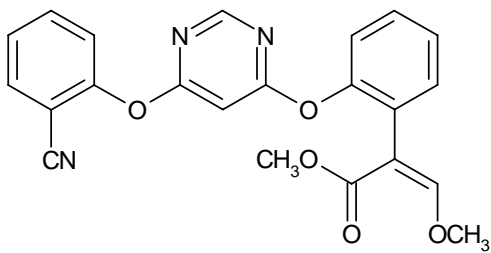
作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法
コーヒー	褐眼病 さび病	0.05kg/ha	収穫 21 日前まで	4 回以内	散布
	褐眼病 さび病 <i>Phoma costarricensis</i>				土壌灌注

6. 作物残留試験

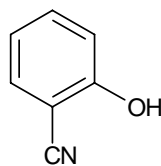
(1) 分析の概要

① 分析対象の化合物

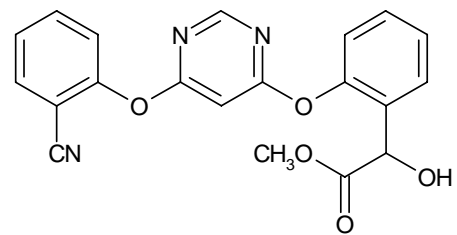
- ・ アゾキシストロビン
- ・ メチル= (Z) -2- {2- [6- (2-シアノフェノキシ) ピリミジン-4-イルオキシ] フェニル} -3-メトキシアクリラート (代謝物D)
- ・ 2-ヒドロキシベンズニトリル (代謝物F)
- ・ メチル=2- {2- [6- (2-シアノフェノキシ) ピリミジン-4-イルオキシ] フェニル} グリコラート (代謝物L)
- ・ 4- (2-シアノフェノキシ) -6-ヒドロキシピリミジン (代謝物M)
- ・ (E) -2- {2- [6- (2-シアノフェノキシ) ピリミジン-4-イルオキシ] フェニル} -3-メトキシアクリル酸 (代謝物B)



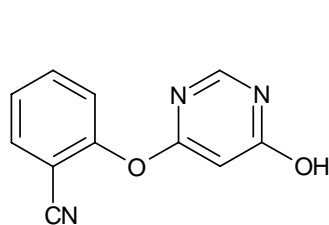
代謝物D



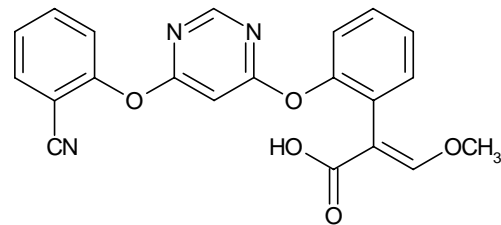
代謝物F



代謝物L



代謝物M



代謝物B

② 分析法の概要

アゾキシストロビン、代謝物D、代謝物L

試料をアセトンで抽出後、多孔性けいそう土カラムクロマトグラフィー、ヘキサン・アセトニトリルで分配し、フロリジルカラムクロマトグラフィー及びシリカゲルカラムクロマトグラフィーで精製し、高速液体クロマトグラフ(UV)で定量する。

代謝物F及び代謝物M

試料をアセトニトリル/水混液で抽出後、ジクロロメタンに転溶する。水層を塩酸酸性下で加水分解したのち、ジクロロメタンに転溶し、シリカゲルカラム等により精製する。先のジクロロメタン層と合わせ、tert-ブチルジメチルシリルエーテル化し、ガスクロマトグラフ(MSD)で定量する。

注) MSD: Mass Spectrometric Detector(質量分析検出器)

代謝物B

試料をアセトニトリル/水混液で抽出後、C18 ミニカラム及びグラファイトカーボンミニカラムクロマトグラフィーで精製し、高速液体クロマトグラフ/質量分析器(LC/MS)で定量する。

なお、代謝物の分析値についてはアゾキシストロビンに換算した値で示した。

定量限界 アゾキシストロビン : 0.003~0.5 ppm

代謝物D、代謝物F、代謝物L及び代謝物M : 0.01~0.04 ppm

代謝物B : 0.01 ppm

(2) 作物残留試験結果

以下に示す作物残留試験結果において、記載の無い代謝物については作物残留試験において分析が未実施であり、代謝物について特に記載のない場合分析はアゾキシストロビンのみ実施されている。

① 稲

稲(玄米)を用いた作物残留試験(2例)において、6%粒剤を1回箱施用(50g/箱)及び1.5%粒剤を計3回散布(4kg/10a)したところ、散布後35~50日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

アゾキシストロビン : <0.01、<0.01 ppm

代謝物D、代謝物F、代謝物L及び代謝物M : <0.01、<0.01 ppm

稲(稲わら)を用いた作物残留試験(2例)において、6%粒剤を1回箱施用(50g/箱)及び1.5%粒剤を計3回散布(4kg/10a)したところ、散布後35~50日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

アゾキシストロビン : 0.84、0.99 ppm

代謝物D : 0.02、<0.04 ppm

代謝物F : 0.09、0.08 ppm

代謝物L : 0.02、0.03 ppm

代謝物M : 0.16、0.16 ppm

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、6%粒剤を1回箱施用（50g/箱）及び0.6%粒剤を計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

アゾキシストロビン : 0.01、0.02 ppm

代謝物D : <0.01、<0.01 ppm

代謝物F : 0.02、0.02 ppm

代謝物L : <0.01、<0.01 ppm

代謝物M : <0.01、<0.01 ppm

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2例)において、6%粒剤を1回箱施用（50g/箱）及び0.6%粒剤を計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

アゾキシストロビン : 1.14、0.54 ppm

代謝物D : 0.11、0.03 ppm

代謝物F : 0.16、0.11 ppm

代謝物L : 0.16、0.05 ppm

代謝物M : 0.28、0.17 ppm

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、6%粒剤を1回箱施用（50g/箱）及び8%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後13^{注2)}～28日の最大残留量は0.04、0.02 ppmであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2例)において、6%粒剤を1回箱施用（50g/箱）及び8%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後13^{注2)}～28日の最大残留量は0.54、0.94 ppmであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、6%粒剤を1回箱施用（50g/箱）及び8%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は0.03、0.04 ppmであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2例)において、6%粒剤を1回箱施用（50g/箱）及び8%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は0.52、0.94 ppmであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、6%粒剤を1回箱施用（50g/

箱)及び8%フロアブルの8倍希釈液を計3回無人ヘリ散布(800mL/10a)したところ、散布後14日の最大残留量は<0.01、0.02 ppmであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

稲(稲わら)を用いた作物残留試験(2例)において、6%粒剤を1回箱施用(50g/箱)及び8%フロアブルの8倍希釈液を計3回無人ヘリ散布(800mL/10a)したところ、散布後14日の最大残留量は0.64、1.64 ppmであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

稲(玄米)を用いた作物残留試験(2例)において、6%粒剤を1回箱施用(50g/箱)及び20%フロアブルの500倍希釈液を計3回散布(25L/10a)したところ、散布後14~21日の最大残留量は0.02、0.02 ppmであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

稲(稲わら)を用いた作物残留試験(2例)において、6%粒剤を1回箱施用(50g/箱)及び20%フロアブルの500倍希釈液を計3回散布(25L/10a)したところ、散布後14~21日の最大残留量は2.32、1.07 ppmであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

②小麦

小麦(種子)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの原液を計2回種子処理(8mL/kg)し、800倍希釈液を根雪前散布(100L/10a)及び2,000倍希釈液を計3回散布(100L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

アゾキシストロビン：0.02、0.10 ppm

代謝物D：<0.01、<0.01 ppm

代謝物F：0.02、0.06 ppm

代謝物L：<0.01、<0.01 ppm

代謝物M：<0.01、0.01 ppm

③だいず

だいず(乾燥子実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布(200~250L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は0.02、0.01 ppmであった。

だいず(乾燥子実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの8倍希釈液を計2回無人ヘリ散布(800mL/10a)したところ、散布後21日の最大残留量は<0.01、0.01 ppmであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

④あずき

あずき(乾燥子実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布(120L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は

0.01、0.01 ppm であった。

⑤いんげんまめ

いんげんまめ(乾燥子実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布(150~300L/10a)したところ、散布後160~175日の最大残留量は<0.01、<0.01 ppm であった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

⑥てんさい

てんさい(根部)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの1,500倍希釈液を計3回散布(200L/10a)したところ、散布後14~30日の最大残留量は<0.01、<0.01 ppm であった。

てんさい(根部)を用いた作物残留試験(2例)において、17%フロアブル注3)の1,000倍希釈液を計3回散布(150L/10a)したところ、散布後21~28日の最大残留量は<0.01、<0.01 ppm であった。

てんさい(根部)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの500倍希釈液を1回土壌灌注(1L/冊)及び1,500倍希釈液を計3回散布(200L/10a)したところ、散布後14~21日の最大残留量は<0.01、0.01 ppm であった。

⑦だいこん

だいこん(根部)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布(107~250L/10a)したところ、散布後14~28日の最大残留量は<0.01、<0.01 ppm であった。

だいこん(葉部)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布(107~250L/10a)したところ、散布後14~28日の最大残留量は0.44、0.14 ppm であった。

⑧かぶ

かぶ(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布(200L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は2.36、8.64 ppm であった。

かぶ(根茎)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布(200L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は0.02、0.04 ppm であった。

⑨はくさい

はくさい(茎葉)を用いた作物残留試験(1例)において、20%フロアブルの原液を1回吹付コーティング(8mL/kg)し、2,000倍希釈液を計4回散布(300L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は0.10 ppm であった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

はくさい（茎葉）を用いた作物残留試験(1例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布(200L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は0.06 ppmであった。

⑩キャベツ

キャベツ（葉球）を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布(200L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は0.08、<0.01 ppmであった。

キャベツ（葉球）を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布(200~300L/10a)したところ、散布後7~14日の最大残留量は以下のとおりであった。

アゾキシストロビン：0.03、0.03 ppm

代謝物B：<0.01、<0.01 ppm

⑪こまつな

こまつな（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布(214~400L/10a)したところ、散布後21日の最大残留量は<0.1、2.5 ppmであった。

⑫大山そだち

大山そだち（茎葉）を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布(300L/10a)したところ、散布後21日の最大残留量は0.76、2.19 ppmであった。

⑬サガミグリーン

サガミグリーン（茎葉）を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布(300L/10a)したところ、散布後21日の最大残留量は0.86、0.92 ppmであった。

⑭しろな

しろな（茎葉）を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計1回散布(200L/10a)したところ、散布後14日の最大残留量は0.12、2.34 ppmであった。

⑮畑わさび（花及び花茎を除く）

畑わさび（茎葉）を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布(300L/10a)したところ、散布後7~28日の最大残留量は5.86、11.8 ppmであった。

畑わさび（根茎）を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000

倍希釈液を計 2 回散布 (300L/10a) したところ、散布後 7~28 日の最大残留量は 0.82、0.73 ppm であった。

⑩エンダイブ

エンダイブ(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計1回散布(200L/10a)したところ、散布後21~35日の最大残留量は<0.05、1.18 ppmであった。

⑪レタス

レタス(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布(200~300L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は1.52、2.94 ppmであった。

レタス(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液の土壌灌注(3000L/10a)及び2,000倍希釈液の散布(200~300L/10a)を計4回行ったところ、散布後7~14日の最大残留量は2.4、2.5 ppmであった。

⑫たまねぎ

たまねぎ(鱗茎)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの1,500倍希釈液を計4回散布(200L/10a)したところ、散布後1~14日の最大残留量は0.02、<0.01 ppmであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

⑬根深ねぎ

根深ねぎ(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布(180~300L/10a)したところ、散布後3~14日の最大残留量は以下のとおりであった。

アゾキシストロビン : 0.96、0.20 ppm

代謝物D : 0.02、<0.01 ppm

代謝物F : 0.02、0.03 ppm

代謝物L : <0.01、<0.01 ppm

代謝物M : 0.02、0.03 ppm

⑭葉ねぎ

葉ねぎ(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布(300L/10a)したところ、散布後3~14日の最大残留量は以下のとおりであった。

アゾキシストロビン : 1.42、1.20 ppm

代謝物D : 0.12、0.06 ppm

代謝物F : 0.04、0.04 ppm

代謝物L : 0.01、0.01 ppm

代謝物M : 0.11、0.08 ppm

②①にんにく

にんにく（鱗茎）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布（300, 150L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は<0.01、<0.01 ppmであった。

②②にら

にら（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布（150～200L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は1.10、2.42 ppmであった。

②③アスパラガス

アスパラガス（茎）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布（250～300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.83、0.13 ppmであった。

②④らっきょう

らっきょう（鱗茎）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布（150L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.02、0.02 ppmであった。

②⑤にんじん

にんじん（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、4.8%フロアブルの1,000倍希釈液を計2回散布（200～400L/10a）したところ、散布後21～28日の最大残留量は0.02、<0.01 ppmであった。

②⑥パセリ

パセリ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計1回散布（250L/10a）したところ、散布後45～60日の最大残留量は0.05、0.33 ppmであった。

②⑦みつば

みつば（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計1回散布（100L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は1.6、1.7 ppmであった。

②⑧トマト

トマト（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの1,500

倍希釈液を計4回散布(300L/10a)したところ、散布後1~8日の最大残留量は0.40、0.09 ppmであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

②9 ピーマン

ピーマン(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布(200L/10a)したところ、散布後1~7日の最大残留量は1.18、1.28 ppmであった。

ピーマン(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布(80-230L/10a)したところ、散布後1~7日の最大残留量は以下のとおりであった。

アゾキシストロビン : 0.78、0.84 ppm

代謝物B : <0.01、<0.01 ppm

③0 なす

なす(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布(300L/10a)したところ、散布後1~7日の最大残留量は以下のとおりであった。

アゾキシストロビン : 0.26、0.58 ppm

代謝物D : <0.01、<0.01 ppm

代謝物F : 0.02、0.02 ppm

代謝物L : <0.01、<0.01 ppm

代謝物M : 0.01、0.02 ppm

③1 きゅうり

きゅうり(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの1000倍希釈液を1回株元灌注(100mL/株)及び1,500倍希釈液を計3回散布(150~300L/10a)したところ、散布後1~7日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

アゾキシストロビン : 0.20、0.48 ppm

代謝物D : <0.01、<0.01 ppm

代謝物F : <0.01、<0.01 ppm

代謝物L : <0.01、<0.01 ppm

代謝物M : <0.01、<0.01 ppm

きゅうり(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの1,500倍希釈液を計4回散布(200-300L/10a)したところ、散布後1~14日の最大残留量は以下のとおりであった。

アゾキシストロビン : 0.28、0.28 ppm

代謝物B : <0.01、<0.01 ppm

③②かぼちゃ

かぼちゃ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（293.3～300L/10a）したところ、散布後1～14日の最大残留量は0.3、0.3 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

③③すいか

すいか（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（168～300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

アゾキシストロビン：0.01、<0.01 ppm

代謝物D：<0.01、<0.01 ppm

代謝物F：<0.01、0.01 ppm

代謝物L：<0.01、<0.01 ppm

代謝物M：<0.01、0.01 ppm

③④メロン

メロン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

アゾキシストロビン：<0.01、<0.01 ppm

代謝物D：<0.01、<0.01 ppm

代謝物F：<0.01、<0.01 ppm

代謝物L：<0.01、<0.01 ppm

代謝物M：<0.01、0.01 ppm

③⑤オクラ

オクラ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布（180～250L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は1.22、1.06 ppmであった。

③⑥さやえんどう

さやえんどう（さや）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布（200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.28、1.30 ppmであった。

③⑦みょうが

みょうが（花穂）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（3000L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.50、0.34 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

③⑧りんご

りんご（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計5回散布（500L/10a）したところ、散布後42日の最大の残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

アゾキシストロビン：0.98、0.14 ppm

代謝物D：0.04、<0.01 ppm

代謝物F：0.02、0.02 ppm

代謝物L：<0.01、<0.01 ppm

代謝物M：0.03、0.02 ppm

③⑨日本なし

日本なし（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計5回散布（500L/10a）したところ、散布後14～42日の最大残留量は以下のとおりであった。

アゾキシストロビン：0.60、0.36 ppm

代謝物D：0.04、0.03 ppm

代謝物F：0.02、0.01 ppm

代謝物L：<0.01、<0.01 ppm

代謝物M：0.04、0.02 ppm

日本なし（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計5回散布（500L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.68、0.35 ppmであった。

④⑩もも

もも（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布（500L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は<0.01、0.01 ppmであった。

もも（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布（500L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は2.57、6.42 ppmであった。

④⑪ネクタリン

ネクタリン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布（400L/10a）したところ、散布後1～14日の最大残留量は0.5、1.4 ppmであった。

ネクタリン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布（400L/10a）したところ、散布後1～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

アゾキシストロビン：0.39、1.42 ppm

代謝物B : <0.01、<0.01 ppm

④②すもも

すもも（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布(300~400L/10a)したところ、散布後1~14日の最大残留量は0.12、0.09 ppmであった。

④③おうとう

おうとう（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布(300~400L/10a)したところ、散布後1~14日の最大残留量は1.30、0.47 ppmであった。

④④いちご

いちご（果実）を用いた作物残留試験(1例)において、20%フロアブルの1,500~2,000倍希釈液を計5回散布(300L/10a)及び1,000倍希釈液を計3回土壌灌注(100mL/株)したところ、散布後1~7日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

アゾキシストロビン : 1.20 ppm

代謝物D : <0.01 ppm

代謝物F : 0.03 ppm

代謝物L : <0.01 ppm

代謝物M : <0.01 ppm

いちご（果実）を用いた作物残留試験(1例)において、20%フロアブルの1,500~2,000倍希釈液を計8回散布(300L/10a)したところ、散布後1~8日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

アゾキシストロビン : 1.18 ppm

代謝物D : 0.01 ppm

代謝物F : <0.01 ppm

代謝物L : <0.01 ppm

代謝物M : <0.01 ppm

④⑤ぶどう

ぶどう（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、10%フロアブルの100倍希釈液を休眠期散布(300~500L/10a)及び1,000倍希釈液を計3回散布(500L/10a)したところ、散布後45~75日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

アゾキシストロビン : 4.22、1.68 ppm

代謝物D : 0.03、0.05 ppm

代謝物F : 0.08、0.07 ppm

代謝物L : 0.01、<0.01 ppm

代謝物M : 0.03、0.03 ppm

④⑥かき

かき（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布(300, 400L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は0.05、0.36 ppmであった。

④⑦パッションフルーツ

パッションフルーツ（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布(300L/10a)したところ、散布後1~7日の最大残留量は0.33、0.30 ppmであった。

④⑧いちじく

いちじく（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布(230~300L/10a)したところ、散布後1~14日の最大残留量は0.25、0.57 ppmであった。

④⑨茶

茶（荒茶）を用いた作物残留試験(4例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布(200L/10a)したところ、散布後14~21日の最大残留量は4.75、2.62、0.80、3.46 ppmであった。

茶（浸出液）を用いた作物残留試験(4例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布(200L/10a)したところ、散布後14~21日の最大残留量は2.50、1.34、0.42、1.28 ppmであった。

④⑩びわ

びわ（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布(400L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は0.017、0.008 ppmであった。

④⑪うめ

うめ（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、10%フロアブルの1,500倍希釈液を計3回散布(250~300L/10a)したところ、散布後1~14日の最大残留量は0.6、0.7 ppmであった。

④⑫わけぎ

わけぎ（茎葉）を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布(150~400L/10a)したところ、散布後7~14日の最大残留

量は 0.1、0.4 ppm であった。

⑤③ あさつき

あさつき（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（150～200L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は1.5、0.8 ppm であった。

⑤④ シソ

シソ（葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回株元散布（200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.11、0.04 ppm であった。

⑤⑤ せり

せり（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（200L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.7、0.8 ppm であった。

⑤⑥ マンゴー

マンゴー（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計1回散布（200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.4、0.5 ppm であった。

⑤⑦ クレソン

クレソン（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後21日の最大残留量は<0.20、0.26 ppm であった。

⑤⑧ 葉ごぼう

葉ごぼう（植物体全体）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計1回散布（200L/10a）したところ、散布後21～28日の最大残留量は2.2、1.6 ppm であった。

⑤⑨ ホトケノザ

ホトケノザ（茎葉）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計1回散布（150L/10a）したところ、散布後30～60日の最大残留量は0.86 ppm であった。

⑥⑩ ゴギョウ

ゴギョウ（茎葉）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計1回散布（150L/10a）したところ、散布後30～60日の最大残留量は

0.36 ppm であった。

⑥1 みずな

みずな（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布（265～391L/10a）したところ、散布後21日の最大残留量は0.4、2.4 ppmであった。

⑥2 ズッキーニ

ズッキーニ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（250L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.2、0.2 ppmであった。

⑥3 グアバ

グアバ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布（139L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.03、0.08 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

⑥4 ピタヤ

ピタヤ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布（188L/10a）したところ、散布後1～14日の最大残留量は1.38、0.26 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

⑥5 ねぎ

ねぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（70～300L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

アゾキシストロビン：2.31、0.48 ppm

代謝物B：<0.01、<0.01 ppm

⑥6 サラダ菜

サラダ菜（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（150、200L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は14.0、15.9 ppmであった。

⑥7 リーフレタス

リーフレタス（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（100～245L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は21.0、5.0 ppmであった。

⑥セルリー

セルリー（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（200L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は9.36、6.1 ppmであった。

⑥さやいんげん

さやいんげん（さや）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布（150、200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.77、1.12 ppmであった。

⑦未成熟そらまめ

未成熟そらまめ（豆）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布（250、286L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は<0.01、0.02 ppmであった。

⑦葉たまねぎ

葉たまねぎ（葉及び鱗茎）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は2.19、1.11 ppmであった。

これらの試験結果の概要については、別紙1-1、海外で実施された作物残留試験成績の結果の概要については、別紙1-2を参照。

注1) 最大残留量：当該農薬の申請の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験（いわゆる最大使用条件下の作物残留試験）を実施し、それぞれの試験から得られた残留量。

（参考：平成10年8月7日付「残留農薬基準設定における暴露評価の精密化に関する意見具申」）

注2) 経過日数13日の試験については、本来最大使用条件下として定められた14日の試験成績の誤差範囲内とみなし、当該試験成績を暴露評価の対象としている。

注3) 有効成分含量の表示値が変更になったため、17%アゾキシストロピンフロアブル剤は18.2%アゾキシストロピンフロアブル剤と同一製剤である。

7. 魚介類への推定残留量

本農薬については水系を通じた魚介類への残留が想定されることから、農林水産省から魚介類に関する個別の残留基準の設定について要請されている。このため、本農薬の水産動植物被害予測濃度^{注1)}及び生物濃縮係数（BCF：Bioconcentration Factor）から、以下の通り魚介類中の推定残留量を算出した。

水産動植物被害予測濃度については、本農薬が水田及び水田以外のいずれの場面においても使用されることから、水田PECtier2^{注2)}及び非水田PECtier1^{注3)}について算出したところ、水田PECtier2は0.47ppb、非水田PECtier1は0.0049ppb

となったことから、水田 P E C tier2 の 0.47ppb を採用した。

また、BCFについては実測値がないため、オクタノール／水分配係数 ($\log_{10}P_{ow} : 2.5$) から、相関式 ($\log_{10}B C F = 0.80\log_{10}P_{ow} - 0.52$) を用いて算出した。

水産動植物被害予測濃度：0.47ppb、B C F : 30

$$\text{推定残留量} = 0.47\text{ppb} \times (30 \times 5) = 70.5\text{ppb} = 0.0705\text{ppm}$$

注1) 農薬取締法第3条第1項第6号に基づく水産動植物の被害防止に係る農薬の登録保留基準設定における規定に準拠

注2) 水田中や河川中での農薬の分解や土壌・底質への吸着、止水期間等を考慮して算出したもの。

注3) 既定の地表流出率、ドリフト率で河川中に流入するものとして算出したもの。

(参考：平成19年度厚生労働科学研究費補助金食品の安心・安全確保推進研究事業「食品中に残留する農薬等におけるリスク管理手法の精密化に関する研究」分担研究「魚介類への残留基準設定法」報告書)

8. 乳牛における残留試験

乳牛に対してアゾキシストロビン0、5、25、75、250ppmを含有する濃厚飼料(20kg/day)を牧草と共に27～30日間にわたり摂食させ(それぞれ0、100、500、1500、5000mg/頭/dayに相当)、牛乳、皮下脂肪、腹腔内脂肪、胸筋、大腿部の内転筋、肝臓及び腎臓に含まれるアゾキシストロビン含量を測定したところ、下記のとおりであった。なお、牛乳については、投与開始後1、3、5、7、12、14、17、21、26、29、30、31日目に搾乳したものを測定した。(検出限界：牛乳0.001ppm、牛乳以外0.01ppm)

上記の結果に関連して、米国では肉牛、乳牛及び豚における最大理論的飼料由来負荷(MTDB)^{注)}はそれぞれ74ppm、106ppm、10ppmと評価している。また、オーストラリアにおいては家畜へのMTDBを20.3ppmと評価している。

表. 組織中の最大残留 (ppm)

	5ppm 投与群	25ppm 投与群	75ppm 投与群	250ppm 投与群
大腿部内転筋	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
胸筋	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
肝臓	<0.01	0.01	0.05	0.07
腎臓	<0.01	<0.01	0.01	0.02
腹腔内脂肪	<0.01	<0.01	0.03	0.03
皮下脂肪	<0.01	<0.01	0.02	0.02
牛乳	0.003	0.006	0.004	0.009

注) 最大理論的飼料由来負荷 (Maximum Theoretical Dietary Burden : MTDB) : 飼料として用いられる全ての飼料品目に残留基準まで残留していると仮定した場合に、飼料の摂取によって畜産動物が暴露されうる最大量のこと。飼料中残留濃度として表示される。

(参考 : Residue Chemistry Test Guidelines OPPTS 860.1480 Meat/Milk/Poultry/Eggs)

9. 産卵鶏における残留試験

産卵鶏に対してアゾキシストロビン 0、6、18、60ppm (0、0.72、2.16、7.2mg/鶏/day) を含有する飼料を 28 日間にわたり摂食させ、筋肉、肝臓及び脂肪中のアゾキシストロビン含量を測定したところ最高投与群においていずれも<0.01ppm であった。また、鶏卵についても投与開始後 1、3、7、10、14、18、21、25、28 日に採卵し分析したところ、最高投与群においていずれも<0.01ppm であった。

上記の結果に関連して、米国ではMTDBは 7ppm として、オーストラリアでは 0.003ppm と評価している。

10. ADI の評価

食品安全基本法 (平成 15 年法律第 48 号) 第 24 条第 1 項第 1 号の規定に基づき、平成 19 年 10 月 2 日付厚生労働省発食安第 1002002 号により食品安全委員会あて意見を求めたアゾキシストロビンに係る食品健康影響評価について、以下のとおり評価されている。

無毒性量 : 18.2 mg/kg 体重/day

(動物種) ラット

(投与方法) 混餌投与

(試験の種類) 慢性毒性/発がん性併合試験

(期間) 2年間

安全係数 : 100

ADI : 0.18 mg/kg 体重/day

11. 諸外国における状況

JMPR における毒性評価はなされておらず、国際基準も設定されていない。

米国、カナダ、欧州連合 (EU)、オーストラリア及びニュージーランドについて調査した結果、米国においてアスパラガス、大麦等に、オーストラリアにおいてアボカド、バナナ等に、ニュージーランドにおいて大豆、ぶどう等に、カナダにおいてぶどう、なたね等に及びEUにおいてラズベリー、にんじん等に基準値が設定されている。

12. 基準値案

(1) 残留の規制対象

アゾキシストロビン本体

海外の作物残留試験においてメチル = (Z) -2- {2- [6- (2-シアノフェノキシ) ピリミジン-4-イルオキシ] フェニル} -3-メトキシアクリレート (以下、「Z 体」という。)

が検出されており、米国等において Z 体も含めて規制を行っているが、海外の作物残留試験成績のうち大部分がアゾキシストロビンの 10%未満にとどまっていること及び国内の作物残留試験において Z 体について分析を行った試験（10 試験）においては、いずれも検出限界未満（0.01ppm）であることから、Z 体については規制対象として含めないこととする。

なお、食品安全委員会によって作成された農薬評価書においては、暴露評価対象物質としてアゾキシストロビンを設定している。

（2）基準値案

別紙 2 のとおりである。

（3）暴露評価

各食品について基準値案の上限まで又は作物残留試験成績等のデータから推定される量のアゾキシストロビンが残留していると仮定した場合、国民栄養調査結果に基づき試算される、1 日当たり摂取する農薬の量（理論最大摂取量（TMD I））の ADI に対する比は、以下のとおりである。詳細な暴露評価は別紙 3 参照。

なお、本暴露評価は、各食品分類において、加工・調理による残留農薬の増減が全くないとの仮定の下におこなった。

	TMD I / ADI (%) 注)
国民平均	27.2
幼小児（1～6 歳）	51.8
妊婦	20.8
高齢者（65 歳以上）	29.2

注) TMD I 試算は、基準値案×摂取量の総和として計算している。高齢者については畜水産物の摂取量データが、妊婦については水産物の摂取量データがそれぞれないため、国民平均の摂取量を参考とした。

アゾキシストロビン国内作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場数	試験条件			最大残留量 (ppm)	
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	【アゾキシストロビンのみ】
稲※ (玄米)	2	6%粒剤+ 1.5%粒剤	50g/箱(箱施用) +4kg/10a 散布	4回	39, 41, 50日 35, 39, 46日	圃場A:<0.01(#)(4回、39日) 圃場B:<0.01(#)(4回、35日)
稲 (稲わら)	2	6%粒剤+ 1.5%粒剤	50g/箱(箱施用) +4kg/10a 散布	4回	39, 41, 50日 35, 39, 46日	圃場A:0.84(#)(4回、41日) 圃場B:0.99(#)(4回、35日)
稲※ (玄米)	2	6%粒剤+ 0.6%粒剤	50g/箱(箱施用) +4kg/10a 散布	4回	14, 21, 28日 14, 21, 28日	圃場A:0.01(#)(4回、14日) 圃場B:0.02(#)(4回、14日)
稲 (稲わら)	2	6%粒剤+ 0.6%粒剤	50g/箱(箱施用) +4kg/10a 散布	4回	14, 21, 28日 14, 21, 28日	圃場A:1.14(#)(4回、14日) 圃場B:0.54(#)(4回、14日)
稲※ (玄米)	2	6%粒剤+ 8%フロアブル	50g/箱(箱施用)+ 1,000倍散布 150L/10a	4回	13, 20, 27日 14, 21, 28日	圃場A:0.04(#)(4回、13日) 圃場B:0.02(#)(4回、28日)
稲 (稲わら)	2	6%粒剤+ 8%フロアブル	50g/箱(箱施用)+ 1,000倍散布 150L/10a	4回	13, 20, 27日 14, 21, 28日	圃場A:0.54(#)(4回、20日) 圃場B:0.94(#)(4回、14日)
稲※ (玄米)	2	6%粒剤+ 8%フロアブル	50g/箱(箱施用)+ 1,000倍散布 150L/10a	4回	14日	圃場A:0.03(#) 圃場B:0.04(#)
稲 (稲わら)	2	6%粒剤+ 8%フロアブル	50g/箱(箱施用)+ 1,000倍散布 150L/10a	4回	14日	圃場A:0.52(#) 圃場B:0.94(#)
稲※ (玄米)	2	6%粒剤+ 8%フロアブル	50g/箱(箱施用)+ 8倍無人ヘリ散布 800mL/10a	4回	14日	圃場A:<0.01(#) 圃場B:0.02(#)
稲 (稲わら)	2	6%粒剤+ 8%フロアブル	50g/箱(箱施用)+ 8倍無人ヘリ散布 800mL/10a	4回	14日	圃場A:0.64(#) 圃場B:1.64(#)
稲※ (玄米)	2	6%粒剤+ 20%フロアブル	50g/箱(箱施用)+ 500倍散布 25L/10a	4回	14, 21日	圃場A:0.02(#)(4回、14日) 圃場B:0.02(#)(4回、21日)
稲 (稲わら)	2	6%粒剤+ 20%フロアブル	50g/箱(箱施用)+ 500倍散布 25L/10a	4回	14, 21日	圃場A:2.32(#)(4回、14日) 圃場B:1.07(#)(4回、14日)
小麦※ (種子)	2	20%フロアブル	原液 8mL/kg(種子処理) +800倍根雪前散布 100L/10a +2000倍散布 100L/10a	5回	7, 14, 21日	圃場A:0.02(#) 圃場B:0.10(#)
だいず (乾燥子実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200~250L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:0.02 圃場B:0.01
だいず (乾燥子実)	2	20%フロアブル	8倍無人ヘリ散布 800mL/10a	2回	21日	圃場A:<0.01(#) 圃場B:<0.01(#)
あずき (乾燥子実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 120L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:0.01 圃場B:0.01(3回、14日)
いんげんまめ (乾燥子実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 150~300L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:<0.01(#) 圃場B:<0.01(#)
てんさい (根部)	2	20%フロアブル	1500倍散布 200L/10a	3回	14, 21, 30日	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01
てんさい (根部)	2	17%フロアブル	1000倍散布 150L/10a	3回	21, 30日	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01
てんさい (根部)	2	20%フロアブル	500倍土壌灌注 1L/冊 +1500倍散布 200L/10a	1+3回	14, 21日	圃場A:<0.01 圃場B:0.01(4回、21日)
だいこん (根部)	2	20%フロアブル	2000倍散布 107~250L/10a	3回	14, 21, 28日	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01
だいこん (葉部)	2	20%フロアブル	2000倍散布 107~250L/10a	3回	14, 21, 28日	圃場A:0.44 圃場B:0.14
かぶ※ (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:2.36 圃場B:8.64
かぶ (根茎)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:0.02 圃場B:0.04(2回、14日)

農作物	試験圃 場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【アズキシストロピンのみ】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
はくさい (茎葉)	1	20%フロアブル	原液 8mL/kg (吹付コーティング) +2000倍散布 300L/10a	5回	7, 14, 21日	圃場A:0.10(＃)(5回、7日)
はくさい (茎葉)	1	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	4回	7, 14, 21日	圃場A:0.06
キャベツ (葉球)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	4回	7, 14, 21日	圃場A:0.08 圃場B:<0.01
キャベツ (葉球)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200-300L/10a	4回	7, 14日	圃場A:0.03 圃場B:0.03
こまつな (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 214~400L/10a	2回	21日	圃場A:<0.1 圃場B:2.5
大山そだち (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 300L/10a	2回	21日	圃場A:0.76 圃場B:2.19
サガミグリーン (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 300L/10a	2回	21日	圃場A:0.86 圃場B:0.92
しろな (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	1回	14日	圃場A:0.12 圃場B:2.34
畑わさび (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 300L/10a	2回	7, 14, 28日	圃場A:5.86 圃場B:11.8
畑わさび (根茎)	2	20%フロアブル	2000倍散布 300L/10a	2回	7, 14, 28日	圃場A:0.82(2回、14日) 圃場B:0.73
エンダイブ (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	1回	21, 28, 35日	圃場A:<0.05 圃場B:1.18
レタス (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200~300L/10a	4回	7, 14, 21日	圃場A:1.52 圃場B:2.94(4回、14日)
レタス (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍土壌灌注 3000L/10a+茎葉散布 200~300L/10a	4回	7, 14日 7, 13日	圃場A:2.4 圃場B:2.5
たまねぎ※ (鱗茎)	2	20%フロアブル	1500倍散布 200L/10a	4回	1, 7, 14日	圃場A:0.02(＃)(4回、1日) 圃場B:<0.01(＃)(4回、1日)
根深ねぎ (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 180~300L/10a	4回	3, 7, 14日	圃場A:0.96 圃場B:0.20
葉ねぎ (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 180~300L/10a	4回	3, 7, 14日	圃場A:1.42(4回、7日) 圃場B:1.20
にんにく (鱗茎)	2	20%フロアブル	2000倍散布 300, 150L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01
にら (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 150~200L/10a	2回	14日	圃場A:1.10 圃場B:2.42
アスパラガス※ (茎)	2	20%フロアブル	2000倍散布 250~300L/10a	4回	1, 3, 7日 1, 3, 6日	圃場A:0.83 圃場B:0.13
らっきょう (鱗茎)	2	20%フロアブル	2000倍散布 150L/10a	3回	3, 7, 14日	圃場A:0.02(3回、7日) 圃場B:0.02
にんじん※ (根部)	2	4.8%フロアブル	1000倍散布 200~400L/10a	2回	21, 28日	圃場A:0.02 圃場B:<0.01
パセリ (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 250L/10a	1回	45, 60日	圃場A:0.05(1回、60日) 圃場B:0.33
みつば (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 100L/10a	1回	14, 21日	圃場A:1.6 圃場B:1.7
トマト※ (果実)	2	20%フロアブル	1500倍散布 300L/10a	4回	1, 3, 7日 1, 3, 8日	圃場A:0.40(＃)(4回、1日) 圃場B:0.09(＃)(4回、8日)
ピーマン (果実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A:1.18 圃場B:1.28
ピーマン (果実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 80-230L/10a	4回	1, 3, 7, 14日	圃場A:0.78(4回、3日) 圃場B:0.84
なす (果実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 300L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A:0.26 圃場B:0.58

農作物	試験圃 場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【アズキシストロピンのみ】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
きゅうり※ (果実)	2	20%フロアブル	1000倍株元灌注 100mL/株 +1500倍散布 150~300L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A:0.20(＃)(4回、1日) 圃場B:0.48(＃)(4回、1日)
きゅうり※ (果実)	2	20%フロアブル	1500倍散布 200-300L/10a	4回	1, 3, 7, 14日	圃場A:0.28 圃場B:0.28
かぼちゃ (果実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 293.3~300L/10a	4回	1, 7, 14日	圃場A:0.3 圃場B:0.3
すいか (果実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 168~300L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A:0.01(4回、7日) 圃場B:<0.01
メロン (果実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 300L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01
オクラ (果実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 180~250L/10a	2回	1, 3, 7日	圃場A:1.22 圃場B:1.06
さやえんどう (さや)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A:0.28(3回、3日) 圃場B:1.30
みょうが (花穂)	2	20%フロアブル	2000倍散布 3000L/10a	4回	3, 7, 14日	圃場A:0.50(4回、3日) (＃) 圃場B:0.34(4回、3日) (＃)
りんご (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 500L/10a	5回	42日	圃場A:0.98 (＃) 圃場B:0.14 (＃)
日本なし (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 500L/10a	5回	14, 28, 42日	圃場A:0.60 圃場B:0.36
日本なし (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 500L/10a	2回	1, 3, 7日	圃場A:0.68 圃場B:0.35
もも (果肉)	2	10%フロアブル	1000倍散布 500L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A:<0.01 圃場B:0.01
もも (果皮)	2	10%フロアブル	1000倍散布 500L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A:2.57 圃場B:6.42(3回、3日)
ネクタリン※ (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 400L/10a	3回	1, 3, 7日 1, 3, 7, 14日	圃場A:0.5(3回、3日) 圃場B:1.4
ネクタリン※ (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 400L/10a	3回	1, 3, 7, 14日 1, 3, 7日	圃場A:0.39(3回、3日) 圃場B:1.42
すもも (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 300~400L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A:0.12 圃場B:0.09
おうとう※ (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 500L/10a	2回	1, 3, 7日	圃場A:1.30(3回、3日) 圃場B:0.47
いちご (果実)	1	20%フロアブル	1500~2000倍散布 300L/10a +1000倍土壌灌注 100mL/株	8回	1, 3, 7日	圃場A:1.20(＃)(8回、1日)
いちご (果実)	1	20%フロアブル	1500~2000倍散布 300L/10a	8回	1, 4, 8日	圃場A:1.18(＃)(8回、1日)
ぶどう※ (果実)	2	10%フロアブル	100倍休眠期散布 300~ 500L/10a+1000倍散布 500L/10a	4回	45, 60, 75日 45, 59, 75日	圃場A:4.22(＃)(4回、45日) 圃場B:1.68(＃)(4回、45日)
かき※ (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 300, 400L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:0.05 圃場B:0.36
パッションフルーツ (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 300L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A:0.33 圃場B:0.30
いちじく (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 230~300L/10a	3回	1, 7, 14日	圃場A:0.25 圃場B:0.57
茶※ (荒茶)	4	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	3回	14, 21日	圃場A:4.75 圃場B:2.62 圃場C:0.80 圃場D:3.46

農作物	試験圃 場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【アゾキシストロピンのみ】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
茶 (浸出液)	4	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	3回	14, 21日	圃場A:2.50 圃場B:1.34 圃場C:0.42 圃場D:1.28
びわ※ (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 400L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:0.017 圃場B:0.008
うめ (果実)	2	10%フロアブル	1500倍散布 250~300L/10a	3回	1, 7, 14日	圃場A:0.6(3回、7日) 圃場B:0.7
わけぎ※ (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 150~400L/10a	4回	7, 14日	圃場A:0.1 圃場B:0.4
あさつき (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 150~200L/10a	4回	3, 7, 14日	圃場A:1.5 圃場B:0.8
シソ (葉)	2	10%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	2回	1, 3, 7日	圃場A:0.10 圃場B:0.04
せり (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	4回	7, 14, 21日 7, 12, 20日	圃場A:0.7(4回、14日) 圃場B:0.8
マンゴー (果実)	2	10%フロアブル	100倍散布 200L/10a	1回	1, 3, 7日	圃場A:0.4 圃場B:0.5
クレソン (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 150L/10a	3回	21日	圃場A:<0.20 圃場B:0.26
葉ごぼう (植物体全体)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	1回	21, 28日	圃場A:2.2 圃場B:1.6
ホトケノザ (茎葉)	1	20%フロアブル	2000倍散布 150L/10a	1回	30, 45, 60日	圃場A:0.86
ゴギョウ (茎葉)	1	20%フロアブル	2000倍散布 150L/10a	1回	30, 45, 60日	圃場A:0.36
みずな (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 265~391L/10a	2回	21日	圃場A:0.4 圃場B:2.4
ズッキーニ (果実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 250L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A:0.2 圃場B:0.2
グアバ※ (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 139L/10a	3回	14, 21日 7, 14, 21日	圃場A:0.03(＃)(3回、14日) 圃場B:0.08(＃)(3回、7日)
ピタヤ※ (果実)	2	10%フロアブル	100倍散布 188L/10a	3回	1, 7, 14日	圃場A:1.38(＃)(3回、1日) 圃場B:0.26(＃)(3回、1日)
ねぎ (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 70~300L/10a	4回	3, 7, 14日	圃場A:2.31 圃場B:0.48
サラダ菜 (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 150, 200L/10a	4回	7, 14, 21日	圃場A:14.0 圃場B:15.9
リーフレタス (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 100~245L/10a	4回	7, 14, 21日	圃場A:21.0 圃場B:5.0
セルリー (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	4回	3, 7, 14日	圃場A:9.36 圃場B:6.1(4回、7日)
さやいんげん (さや)	2	20%フロアブル	2000倍散布 150, 200L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A:0.77 圃場B:1.12
未成熟そらまめ (豆)	2	20%フロアブル	2000倍散布 250, 286L/10a	4回	3, 7, 14日	圃場A:<0.01 圃場B:0.02
葉たまねぎ (葉及び鱗茎)	2	20%フロアブル	2000倍散布 150L/10a	3回	3, 7, 14日	圃場A:2.19(3回、7日) 圃場B:1.11(3回、7日)

(＃) これらの作物残留試験は、申請の範囲内で試験が行われていない。
(※) 印で示した作物については、申請の範囲内で最高の値を示した括弧内に示す条件において得られた値を採用し、最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付している。
なお、食品安全委員会農薬専門調査会の農薬評価書「アゾキシストロピン」に記載されている作物残留試験成績は、各試験条件における残留農薬の最高値及び各試験場、検査機関における最高値の平均値を示したものであり、上記の最大残留量の定義と異なっている。

アゾキシストロビン海外作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場	試験条件				最大残留量 (ppm)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
稲 (籾米)	7	80%顆粒水和剤	224g ai/ha 散布 +336g ai/ha 散布	2+1回	28日	圃場A:0.30 圃場B:2.7 圃場C:2.2 圃場D:0.41 圃場E:0.19 圃場F:0.27 圃場G:0.82
小麦 (穀粒)	5	フロアブル (250g ai/L)	250g ai/ha 散布	3回	40日 48日 48日 48日 39日	圃場A:0.01 圃場B:0.03 圃場C:0.02 圃場D:0.02 圃場E:0.03
大麦 (穀粒)	3	フロアブル (250g ai/L)	250g ai/ha 散布	3回	38日 53日 55日	圃場A:0.23 圃場B:0.14 圃場C:0.07
とうもろこし (穀粒)	6	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	8回	7日	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01 圃場C:<0.01 圃場D:0.02 圃場E:<0.01 圃場F:<0.01
大豆 (種子)	7	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	14日 15日 14日 16日 14日 14日 14日	圃場A:0.04 圃場B:0.12 圃場C:0.12 圃場D:0.07 圃場E:0.06 圃場F:0.06 圃場G:0.02
らっかせい (種子)	9	80%顆粒水和剤	448g ai/ha 散布	2回	14日 14日 14日 14日 14日 14日 20日 14日 14日	圃場A:<0.01 圃場B:0.01 圃場C:0.01 圃場D:0.12 圃場E:0.01 圃場F:<0.01 圃場G:<0.01 圃場H:0.06 圃場I:0.01
ばれいしょ (根茎)	4	フロアブル (250g ai/L)	1500g ai/ha 土壌混和	1回	108日 118日 95日 116日	圃場A:0.01 圃場B:0.01 圃場C:0.01 圃場D:0.01
ばれいしょ (根茎)	4	フロアブル (250g ai/L)	750g ai/ha 畝間散布	1回	108日 118日 95日 116日	圃場A:0.01 圃場B:0.02 圃場C:0.01 圃場D:0.03

農作物	試験圃場	試験条件				最大残留量 (ppm)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
ばれいしょ (根茎)	14	80%顆粒水和剤	370g ai/ha 散布	6回	14日	圃場A:0.01 圃場B:<0.01 圃場C:0.01 圃場D:<0.01 圃場E:<0.01 圃場F:0.02 圃場G:<0.01 圃場H:<0.01 圃場I:<0.01 圃場J:<0.01 圃場K:<0.01 圃場L:<0.01 圃場M:<0.01 圃場N:<0.01
てんさい (根茎)	9	80%顆粒水和剤	370g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:0.03 圃場B:0.05 圃場C:0.18 圃場D:0.08 圃場E:0.04 圃場F:0.10 圃場G:0.11 圃場H:0.08 圃場I:0.05
ラディッシュ (根茎)	5	80%顆粒水和剤	370g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:0.41 圃場B:0.26 圃場C:0.14 圃場D:0.39 圃場E:0.11
ラディッシュ (葉)	5	80%顆粒水和剤	370g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:23.6 圃場B:31.4 圃場C:12.8 圃場D:9.9 圃場E:14.3
クレソン (茎葉)	5	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	3回 6回	7日	圃場A:0.117 圃場B:0.475 圃場C:0.511 圃場D:<0.0676 圃場E:1.32
キャベツ (葉) ※外葉あり	4	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:1.76 圃場B:0.90 圃場C:0.321 圃場D:1.99
キャベツ (葉)	4	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:0.176 圃場B:0.101 圃場C:0.0251 圃場D:0.174
芽キャベツ (茎葉)	3	フロアブル (250g ai/L)	250g ai/ha 散布	2回	14, 21日	圃場A:0.02 圃場B:0.04 圃場C:0.05

農作物	試験圃場	試験条件				最大残留量 (ppm)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
ケール (茎葉)	3	フロアブル (250g ai/L)	250g ai/ha 散布	2回	14, 21日	圃場A:0.08 圃場B:0.32
					13, 21日	圃場C:0.31 (2回、21日)
マスタード (葉)	9	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0, 6日	圃場A:4.81
					0日	圃場B:14.7
					0日	圃場C:4.36
					0, 7日	圃場D:5.60 (6回、7日)
					0日	圃場E:12.2
					0, 7日	圃場F:10.7 (6回、7日)
					0, 6日	圃場G:21.0
			0日		圃場H:7.52	
		135-280g ai/ha 散布	0日	圃場I:7.19		
ブロッコリー (花穂)	4	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0, 3, 7日	圃場A:0.804 (6回、7日)
					0日	圃場B:1.29
					0, 4, 6日	圃場C:2.13
					0日	圃場D:0.187
カリフラワー (花穂)	4	フロアブル (250g ai/L)	250g ai/ha 散布	2回	14, 21日	圃場A:0.02 圃場B:0.06 圃場C:0.17 圃場D:0.15
アーティチョーク (葉)	3	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:1.6 圃場B:1.7 圃場C:2.3
レタス (葉)	8	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:2.49 圃場B:3.37 圃場C:3.43 圃場D:3.77 圃場E:2.47 圃場F:4.70 圃場G:3.39 圃場H:2.11
リーフレタス (葉)	8	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:6.1 圃場B:3.5 圃場C:4.4 圃場D:10.0 圃場E:8.2 圃場F:4.9 圃場G:13.5 圃場H:2.7
たまねぎ (鱗茎)	8	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:0.55 圃場B:0.20 圃場C:0.45 圃場D:0.30 圃場E:<0.01 圃場F:0.14 圃場G:0.28 圃場H:0.07
ねぎ (茎葉)	2	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:5.5 圃場B:1.4

農作物	試験圃場	試験条件				最大残留量 (ppm)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
ねぎ (茎葉)	4	80%顆粒水和剤	113g ai/ac 散布	6回	0日	圃場A:1.2 圃場B:1.4 圃場C:2.3 圃場D:0.58
ねぎ (茎葉)	4	22.8%フロアブル	113g ai/ac 散布	6回	0日	圃場A:1.0 圃場B:1.9 圃場C:2.0 圃場D:0.19
にんじん (根茎)	6	80%顆粒水和剤	370g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:0.17 圃場B:0.11 圃場C:0.23 圃場D:0.02 圃場E:0.29 圃場F:0.13
パセリ (茎葉)	2	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:19.7 圃場B:14.2
セルリー (根茎)	8	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:2.1 圃場B:3.8 圃場C:9.1 圃場D:3.2 圃場E:2.3 圃場F:4.6 圃場G:5.6 圃場H:2.2
きゅうり (果実)	7	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	1日	圃場A:0.08 圃場B:0.06 圃場C:0.05 圃場D:0.04 圃場E:0.09 圃場F:0.07 圃場G:0.05
サマースカッシュ (果実)	5	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	1日	圃場A:0.08 圃場B:0.10 圃場C:0.05 圃場D:0.05 圃場E:0.11
カンタロープ (果実)	6	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	1日	圃場A:0.17 圃場B:0.14 圃場C:0.10 圃場D:0.19 圃場E:0.25 圃場F:0.1
ほうれんそう (茎葉)	7	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	6日 0日 0日 6日 0日 0, 7日 0日	圃場A:2.28(6回、6日) 圃場B:18.5 圃場C:8.25 圃場D:2.81(6回、6日) 圃場E:23.0 圃場F:13.6 圃場G:12.5

農作物	試験圃場	試験条件				最大残留量 (ppm)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
ほうれんそう (茎葉)	4	80%顆粒水和剤	113g ai/ac 散布	6回	0日	圃場A:16 圃場B:6.2 圃場C:10.1 圃場D:9.6
ほうれんそう (茎葉)	4	22.8%フロアブル	113g ai/ac 散布	6回	0日	圃場A:14 圃場B:5.0 圃場C:7.7 圃場D:12.0
未成熟豆類※ (莢付豆)	3	80%顆粒水和剤	13.9g ai/km 畝間 +280g ai/ha 散布	1+6回	0日	圃場A:0.38(1+6回、0日) (#) 圃場B:0.10(1+6回、0日) (#) 圃場C:1.0(1+6回、0日) (#)
多肉未成熟豆類※ (豆)	1	80%顆粒水和剤	13.9g ai/km 畝間 +280g ai/ha 散布	1+6回	0日	圃場A:0.02(1+6回、0日) (#)
レモン (果実)	3	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布 (水量60- 68gallon/acre)	6回	0日	圃場A:0.69 圃場B:0.63 圃場C:0.58
レモン (果実)	3	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布 (水量221-235 gallon/acre)	6回	0日	圃場A:0.42 圃場B:0.47 圃場C:0.27
オレンジ (果実)	4	80%顆粒水和剤	113g ai/ac 散布	6回	0日	圃場A:0.44 圃場B:0.28 圃場C:0.83 圃場D:0.56
オレンジ (果実)	4	フロアブル (2081b/gallon)	113g ai/ac 散布	6回	0日	圃場A:0.23 圃場B:0.35 圃場C:1.05 圃場D:0.72
グレープフルーツ (果実)	4	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布 (水量53- 67gallon/acre)	6回	0日	圃場A:0.18 圃場B:0.20 圃場C:0.18 圃場D:0.18
グレープフルーツ (果実)	3	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布 (水量217-242 gallon/acre)	6回	0日	圃場A:0.24 圃場B:0.24 圃場C:0.37
ラズベリー※ (果実)	2	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	7回 6回	0日 0日	圃場A:0.69 (7回、0日) (#) 圃場B:2.33
ブラックベリー※ (果実)	1	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	7回	0日	圃場A:2.87 (7回、0日) (#)
ブルーベリー※ (果実)	7	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	0日 0, 7日	6回	圃場A:1.33 (6回、0日) (#) 圃場B:0.493 (6回、0日) (#) 圃場C:0.918 (6回、0日) (#) 圃場D:0.677 (6回、0日) (#) 圃場E:0.869 (6回、0日) (#) 圃場F:0.857 (6回、0日) (#) 圃場G:1.06 (6回、0日) (#)
クランベリー (果実)	4	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	3, 14日 3, 13日 3, 15日 3, 14日	圃場A:0.151 (6回、14日) 圃場B:0.257 圃場C:0.282 圃場D:0.181
バナナ (果実) (無袋)	6	80%顆粒水和剤	151g ai/ha 散布	8回	0日	圃場A:0.10 圃場B:0.18 圃場C:0.10 圃場D:0.21 圃場E:0.25 圃場F:0.15

農作物	試験圃場	試験条件				最大残留量 (ppm)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
バナナ (果実) (袋詰)	6	80%顆粒水和剤	151g ai/ha 散布	8回	0日	圃場A:0.04 圃場B:0.01 圃場C:0.02 圃場D:0.05 圃場E:0.02 圃場F:0.13
マンゴー (果実)	3	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:0.243 圃場B:0.0686 圃場C:0.444
ライチ (果実)	2	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	5回	0日	圃場A:1.66 圃場B:0.231
パパイヤ (果実)	2	500g ai/kg	80g ai/ha 散布 160 g ai/ha 散布	6回	0, 3, 7, 10, 14日	圃場A:0.16 (6回、0日) 圃場B:0.49 (6回、0日)
綿実 (種子)	12	80%顆粒水和剤	18.6g ai/km 畝間散布	1回	202日 180日 182, 217日 184, 237日 166日 163, 218日 161, 205日 182日 190日 207日 148, 198日 161, 215日	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01 圃場C:<0.01 圃場D:<0.01 圃場E:<0.01 圃場F:<0.01 圃場G:<0.01 圃場H:<0.01 圃場I:<0.01 圃場J:<0.01 圃場K:<0.01 圃場L:<0.01
なたね (種子)	1	水和剤 (250g ai/L)	250g ai/L 散布	2回	21, 23日	圃場A:0.05
なたね (種子)	1	フルトリアフォル 水和剤 (200g ai/L)	200g ai/L 散布	2回	21, 23日	圃場A:0.03
キャノーラ (種子)	2	80%顆粒水和剤	448g ai/ha 散布	1回	71日 65日	圃場A:<0.01 圃場B:0.01
アーモンド (種子)	5	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	29日 29日 29日 29日 28日	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01 圃場C:<0.01 圃場D:<0.01 圃場E:<0.01
ピスタチオ (種子)	3	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	7日	圃場A:0.406 圃場B:0.354 圃場C:0.244
ホップ (新鮮穂軸)	2	フロアブル (250 g ai/L)	250g ai/ha 散布	6回	28日 26日	圃場A:3.2 (6回、28日) (#) 圃場B:3.4 (6回、26日) (#)
ホップ※ (乾燥穂軸)	4	フロアブル (250 g ai/L)	250g ai/ha 散布	6回	28日 26日	圃場A:12 (6回、28日) (#) 圃場B:10 (6回、28日) (#) 圃場C:15 (6回、26日) (#) 圃場D:9.3 (6回、26日) (#)

農作物	試験圃場	試験条件				最大残留量 (ppm)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
ディール (種子)	3	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:6.20 圃場B:17.4 圃場C:23.3
バジル (葉)	3	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:46.3 圃場B:23.3 圃場C:19.3
				5回		
				6回		
ピーマン※ (果実)	5	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0, 8日	圃場A:0.107 (6回、8日) (#)
					0, 6日	圃場B:0.369 (6回、0日) (#)
					0日	圃場C:0.314 (6回、0日) (#)
					0, 7日	圃場D:0.242 (6回、7日) (#)
				7回	0日	圃場E:0.136 (7回、0日) (#)
とうがらし※ (果実)	4	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0, 8日	圃場A:0.834 (6回、0日) (#)
					0日	圃場B:0.499 (6回、0日) (#)
					0日	圃場C:0.059 (6回、0日) (#)
				8回	0日	圃場D:0.915 (8回、0日) (#)
コーヒー豆※ (種子)	1	80%顆粒水和剤	50g ai/ha 散布	5回	21, 28, 35, 42日	圃場A:<0.01 (5回、21日) (#)

海外で実施された作物残留試験のうち、作物残留試験が実施された国の使用方法の範囲内で試験が行われていない試験成績等については記載していない。

ただし、作物名に「※」が記されている未成熟豆類、多肉未成熟豆類、ラズベリー、ブラックベリー、ブルーベリー、ホップ、ピーマン、とうがらし及びコーヒー豆の試験については作物残留試験が実施された国における使用方法の範囲外で実施されているものの、作物残留試験条件等を考慮し、基準値設定の際の参考とすることとした。

最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付している。

なお、食品安全委員会農薬専門調査会の農薬評価書「アゾキシストロビン」に記載されている作物残留試験成績は、各試験条件における残留農薬の最高値及び各試験場、検査機関における最高値の平均値を示したものであり、上記の最大残留量の定義と異なっている。

農産物名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績 ppm
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
米	0.2	0.2	○		5.0 アメカ	<0.01(#), <0.01(#), 0.01(#), 0.02(#), 0.04(#\$), 0.02(#), 0.03(#), 0.04(#), <0.01(#), 0.02(#), 0.02(#), 0.02(#) 【0.30, 2.7, 2.2, 0.41, 0.19, 0.27, 0.82】
小麦	0.5	0.5	○		0.3 EU	0.02(#), 0.10(#\$) 【0.01, 0.03, 0.02, 0.02, 0.03】
大麦	0.3	0.3			0.3 EU	
ライ麦	0.3	0.3			0.3 EU	
とうもろこし	0.05	0.05			0.05 アメカ	【<0.01, <0.01, 0.02, <0.01, <0.01, <0.01】
そば					0.2 NZ	
その他の穀類	0.3	0.3			0.3 EU	
大豆	0.5	0.5	○		0.5 アメカ	0.02, 0.01, <0.01(#), <0.01(#) 【0.04, 0.12, 0.02, 0.07, 0.06, 0.06, 0.02(大豆) <0.01, <0.01, <0.01, <0.01, <0.01, <0.01, <0.01, <0.01, <0.01, 0.01(乾 燥豆)】
小豆類	0.5	0.5	○		0.50 アメカ	0.01, 0.01, <0.01(#), <0.01(#) 【米国の大豆及び乾燥豆のデータを 参照】
えんどう	0.5	0.5			0.50 アメカ	【米国の大豆及び乾燥豆のデータを 参照】
そらまめ	0.5	0.5			0.50 アメカ	【米国の大豆及び乾燥豆のデータを 参照】
らつかせい	0.2	0.2			0.2 アメカ	【<0.01, <0.01, 0.01, 0.01, 0.12, <0.01, <0.01, 0.06, 0.01】
その他の豆類	0.5	0.5			0.50 アメカ	【米国の大豆及び乾燥豆のデータを 参照】
ばれいしよ	0.05	0.05			0.05 EU	【0.01, 0.01, 0.01, 0.01/0.01, 0.02, 0.01, 0.03/0.01, <0.01, 0.01, <0.01, <0.01, 0.02, <0.01, <0.01, <0.01, <0.01, <0.01, <0.01, <0.01, <0.01】
さといも類	0.03	0.03			0.03 アメカ	【米国のじゃがいものデータを参照】
かんしよ	0.03	0.03			0.03 アメカ	【米国のじゃがいものデータを参照】
やまいも	0.03	0.03			0.03 アメカ	【米国のじゃがいものデータを参照】
こんにやくいも					0.05 EU	
その他のいも類	0.03	0.03			0.03 アメカ	【米国のじゃがいものデータを参照】
てんさい	0.5	0.5	○		0.5 アメカ	<0.01, <0.01, <0.01, <0.01, <0.01, 0.01 【0.03, 0.05, 0.17, 0.08, 0.04, 0.10, 0.09, 0.08, 0.05】
だいこん類の根	0.5	0.5	○		0.5 アメカ	<0.01, <0.01 【0.41, 0.26, 0.14, 0.37, 0.11】 0.44, 0.14
だいこん類の葉	50	50	○		50.0 アメカ	【23.6, 32.4, 12.8, 9.9, 14.3】
かぶ類の根	0.5	0.5	○		0.5 アメカ	0.02, 0.04
かぶ類の葉	15	15	○		25 アメカ	2.36, 8.64(\$)
西洋わさび	0.5	0.5			0.5 アメカ	【米国のだいこん類の根及びペンサ イのデータを参照】
クレンソ	3.0	3.0	○		3.0 アメカ	<0.20, 0.26 【0.117, 0.475, 0.511(\$), <0.0676, 1.32】
はくさい	3.0	3.0	○		3.0 アメカ	0.10(#), 0.06 【米国のキャベツとブロッコリーの データを参照】
キャベツ	3.0	3.0	○		3.0 アメカ	0.08, <0.01, 0.03, 0.03 【0.176, 0.101, 0.0251, 0.174(外葉 なし) 1.76, 0.90, 0.321, 1.99(外葉 あり)】
芽キャベツ	3.0	3.0			3.0 アメカ	【0.02, 0.04, 0.05/ 【米国のキャベツとブロッコリーの データを参照】
ケール	5	5			25 アメカ	【0.08, 0.32, 0.31】
こまつな	5	5	○		25 アメカ	<0.1, 2.5(\$)
きょうな	5	5			25 アメカ	0.4, 2.4(\$)
チンゲンサイ	5	5			25 アメカ	

農産物名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績 ppm	
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm		
カリフラワー ブロッコリー	3.0 3.0	3.0 3.0			3.0 3.0	アメリカ アメリカ	【0.02, 0.06, 0.17, 0.15/米国のキャベツとブロッコリーのデータを参照】 【0.804, 1.29, 2.13, 0.187】 0.12, 2.34(しろな) 0.76, 2.19(大山そだち) 0.86, 0.92(サガミグリーン) 0.82, 0.73(畑わさび) 【米国のレタス、リーフレタス、セロリ及びびほうれんそうのデータを参照】
その他のあぶらな科野菜	30	30	○		30.0	アメリカ	
ごぼう	0.5	0.5			0.5	アメリカ	【米国のだいこん類の根、テンサイ及びびんじんのデータを参照】
サルシフィー	0.5	0.5			0.5	アメリカ	【米国のだいこん類の根、テンサイ及びびんじんのデータを参照】
アーティチョーク	4.0	4.0			4.0	アメリカ	【1.6, 1.7, 2.3】
チコリ	30	30			30.0	アメリカ	【米国のレタス、リーフレタス、セロリ及びびほうれんそうのデータを参照】 <0.05, 1.18
エンダイブ	30	30	○		30.0	アメリカ	【米国のレタス、リーフレタス、セロリ及びびほうれんそうのデータを参照】
しゅんぎく	30	30			30.0	アメリカ	【米国のレタス、リーフレタス、セロリ及びびほうれんそうのデータを参照】 1.52, 2.94, 2.4, 2.5(レタス)、14.0, 15.9(サラダ菜)、21.0, 5.0(リーフレタス)
レタス	30	30	○		30.0	アメリカ	【2.49, 3.30, 3.43, 3.77, 2.43, 4.70, 3.39, 2.12(レタス) 6.1, 3.4, 4.4, 10.0, 8.2, 4.9, 13.5, 2.7(非結球レタス)】 2.2, 1.6(葉ごぼう) 0.86(ホトケノザ) 0.36(ゴギョウ)
その他のきく科野菜	50	50			50	アメリカ	【米国のバジルのデータを参照】
たまねぎ	0.1	0.1	○		0.05	EU	0.02(#), <0.01(#) 【0.55, 0.20, 0.45, 0.30, <0.01, 0.14, 0.28, 0.06】 0.96, 0.20(根深ねぎ) 1.42, 1.20(葉ねぎ) 【5.5, 1.4/1.2, 1.4, 2.3, 0.58/0.96, 1.9, 2.0, 0.19】
ねぎ	7.5	7.5	○		7.5	アメリカ	
にんにく	0.1	0.1	○		0.05	EU	<0.01, <0.01
にら	5	5	○		3	EU	1.10, 2.42
アスパラガス	2	2	○		0.05	EU	0.83(\$), 0.13
わけぎ	1	1	○		0.05	EU	0.1, 0.4(\$) 0.02, 0.02(らっきょう)、2.19, 1.11(葉たまねぎ)
その他のゆり科野菜	50	50	○		50	アメリカ	【米国のバジルのデータを参照】
にんじん	0.5	0.5	○		0.5	アメリカ	0.02(\$), <0.01 【0.17, 0.11, 0.23, 0.02, 0.29, 0.12】 【米国のだいこん類の根、テンサイ及びびんじんのデータを参照】
パースニップ	0.5	0.5			0.5	アメリカ	0.05, 0.33 【19.7, 14.2/米国のレタス、リーフレタス、セロリ及びびほうれんそうのデータを参照】
パセリ	30	30	○		30.0	アメリカ	【2.1, 3.8, 9.1, 3.0, 2.3, 4.6, 5.6, 2.2】
セロリ	30	30			30.0	アメリカ	
みつば	5	5	○		3	EU	1.6, 1.7 0.7, 0.8(せり)
その他のせり科野菜	50	50	○		50	アメリカ	【米国のバジルのデータを参照】
トマト	1	1	○		2.0	EU	0.40(#), 0.09(#)
ピーマン	3	3	○		2.0	アメリカ	1.18, 1.28, 0.78, 0.84
なす	2	2	○		2.0	アメリカ	0.26, 0.58(\$)
その他のなす科野菜	2.0	2.0			2.0	アメリカ	
きゅうり	1	1	○		1	オーストラリア	0.20(#), 0.48(#), 0.28, 0.28 【0.08, 0.06, 0.05, 0.04, 0.09, 0.07, 0.04】 0.3(#), 0.3(#)(かぼちゃ) 0.2, 0.2(ズッキーニ)
かぼちや	1	1	○		1	オーストラリア	【0.08, 0.10, 0.05, 0.05, 0.11】
しろり	1	1	○		1	オーストラリア	
すいか	1	1	○		1	オーストラリア	0.01, <0.01

農産物名	基準値案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績 ppm
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
メロン類果実 まくわうり その他のうり科野菜	1 1 1	1 1 1	○ ○ ○		1 1 1 オーストラリア オーストラリア オーストラリア	<0.01, <0.01 【0.17, 0.14, 0.10, 0.19, 0.25, 0.1 (カンタロープ)】
ほうれんそう たけのこ オクラ しょうが 未成熟えんどう 未成熟いんげん えだまめ	30 3 0.03 3.0 3.0 3.0	30 3 0.03 3.0 3.0 3.0	○ ○ ○ ○ ○ ○		30.0 0.05 2.0 0.03 3.0 3.0 3.0 アメリカ EU アメリカ アメリカ アメリカ アメリカ アメリカ	【2.28, 18.5, 8.25, 2.81, 23.0, 13.6, 13.6, 12.5/16, 6.2, 10.1, 9.6/14, 5.0, 7.7, 12.0】 1.22, 1.06 【米国のじゃがいものデータを参照】 【米国の未成熟豆類のデータを参 照】 【米国の未成熟豆類のデータを参 照】 【米国の未成熟豆類のデータを参 照】
マッシュルーム しいたけ その他のきのこ類					0.05 0.05 0.05 EU EU EU	
その他の野菜	50	50			50 アメリカ	<0.01, 0.02(未成熟そらまめ) 【米国のバジルのデータを参照】
みかん なつみかんの果実全体 レモン オレンジ グレープフルーツ ライム その他のかんきつ類果実	1.0 1.0 1.0 1.0 1.0 1.0 1.0	1.0 1.0 1.0 1.0 1.0 1.0 1.0			1.0 1.0 1.0 1.0 1.0 1.0 1.0 アメリカ アメリカ アメリカ アメリカ アメリカ アメリカ アメリカ	【米国のレモンとグレープフルーツの データを参照】 【米国のレモンとグレープフルーツの データを参照】 【0.69, 0.61, 0.58/0.42, 0.47, 0.28】 【0.44, 0.28, 0.83, 0.56/0.23, 0.35, 1.05, 0.72 /米国のレモンとグレープフルーツ のデータを参照】 【0.18, 0.29, 0.18, 0.18/0.24, 0.24, 0.37】 【米国のレモンとグレープフルーツの データを参照】 【米国のレモンとグレープフルーツの データを参照】
りんご 日本なし 西洋なし マルメロ びわ	2 2 2 0.1	2 2 2 0.1	○ ○ ○ ○		0.05 0.05 0.05 0.05 2 EU EU EU EU アメリカ	0.98(#), 0.14(#) 0.60, 0.36, 0.68, 0.35 0.017(\$), 0.008
もも ネクタリン あんず すもも うめ おうとう	1.5 3 1.5 1.5 1.5 3	1.5 3 1.5 1.5 1.5 3	○ ○ ○ ○ ○ ○		1.5 1.5 1.5 1.5 0.05 1.5 アメリカ アメリカ アメリカ アメリカ EU アメリカ	<0.01, 0.01 0.5, 1.4(\$), 0.39, 1.42 0.6, 0.7 1.30(\$), 0.47
いちご ラズベリー ブラックベリー ブルーベリー クランベリー ハuckleベリー その他のベリー類果実	3 5.0 5.0 3.0 0.5 3.0 5.0	3 5.0 5.0 3.0 0.5 3.0 5.0	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		10 5.0 5.0 3.0 0.50 3.0 5.0 アメリカ アメリカ アメリカ アメリカ アメリカ アメリカ アメリカ	1.20(#), 1.18(#) 【2.33, 0.69(#)】 【米国のラズベリーのデータを参照】 0.918(#), 1.06(#), 0.677(#), 0.869(#) 【0.151, 0.257, 0.282, 0.181】 【米国のブルーベリーのデータを参 照】 【米国のラズベリーのデータを参照】
ぶどう かき	10 1	10 1	○ ○		3 2 カナダ アメリカ	4.22(#\$), 1.68(#) 0.05, 0.36(\$)
バナナ キウイ パパイヤ アボカド パイナップル グアバ マンゴー パッションフルーツ なつめやし	2.0 2.0 1 0.3 1 1	2.0 2.0 1 0.3 1 1			2.0 0.05 2.0 1 0.05 2.0 0.5 2.0 0.05 アメリカ EU アメリカ オーストラリア EU アメリカ オーストラリア アメリカ EU	【0.10, 0.18, 0.10, 0.21, 0.25, 0.15 (無袋)/0.04, 0.01, 0.02, 0.05, 0.02, 0.13(袋詰)】 【0.16, 0.49】 【オーストラリアのアボカドのデータを参 照】 0.03(#), 0.08(#\$) 0.4, 0.5 【0.243, 0.0686, 0.444】 0.33, 0.30

農産物名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績 ppm
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
その他の果実	3	3	○		2.0 アムカ	0.25, 0.57(いちじく) 1.38(\$), 0.26(ピタヤ) 【1.66, 0.231(ライチ)】
ひまわりの種子 ごまの種子 べにはなの種子	1.0	1.0			0.05 EU 0.05 EU 1.0 アムカ	【米国のキャノーラのデータを参照】 【<0.01, <0.01, <0.01, <0.01, <0.01, <0.01, <0.01, <0.01, <0.01, <0.01, <0.01, <0.01】
綿実 なたね	0.02 1	0.02 1			0.02 アムカ 0.5 EU	【0.05/0.03/<0.01, 0.01】
その他のオイルシード						
ぎんなん くり ペカン アーモンド くるみ その他のナッツ類	0.02 0.02 0.02 0.02 0.02 0.5	0.02 0.02 0.02 0.02 0.02 0.5			0.1 EU 0.10 EU 0.10 EU 4.0 アムカ 0.10 EU 0.50 アムカ	【<0.01, <0.01, <0.01, <0.01, <0.01】 【0.406, 0.354, 0.244(ピスタチオ)】
茶 コーヒー豆 ホップ	10 0.05 20	10 0.05 20	○		0.1 EU 0.05 ブラジル 20.0 アムカ	4.75(\$), 2.62, 0.80, 3.46 【<0.01, <0.01, 0.16】 【12(#), 10(#), 15(#), 9.3(#)】
その他のスパイス	30	30				【6.20, 17.4, 23.3(\$)(ディル)】 5.86, 11.8(畑わさび) 0.50(#), 0.34(#)(みょうが) 1.5, 0.8(あさつき) 0.11, 0.04(シソ) 【4.81, 14.7, 4.36, 5.60, 12.2, 10.7, 21.0, 7.52, 7.19(マスタード) 46.3, 23.3, 19.3(バジル)】
その他のハーブ	50	50	○		50 アムカ	
牛の筋肉 豚の筋肉 その他の陸棲哺乳類に属する動物の筋肉 牛の脂肪 豚の脂肪 その他の陸棲哺乳類に属する動物の脂肪 牛の肝臓 豚の肝臓 その他の陸棲哺乳類に属する動物の肝臓 牛の腎臓 豚の腎臓 その他の陸棲哺乳類に属する動物の腎臓 牛の食用部位 豚の食用部位 その他の陸棲哺乳類に属する動物の食用部分	0.01 0.01 0.01 0.03 0.01 0.03 0.3 0.3 0.3 0.07 0.06 0.07 0.07 0.07 0.01 0.07	0.01 0.01 0.01 0.03 0.01 0.03 0.3 0.3 0.3 0.07 0.06 0.07 0.07 0.07 0.01 0.07			0.01 カナダ 0.01 カナダ 0.01 カナダ 0.03 アムカ 0.010 アムカ 0.03 アムカ 0.3 カナダ 0.3 カナダ 0.3 カナダ 0.07 アムカ 0.06 カナダ 0.07 アムカ 0.07 アムカ 0.07 アムカ 0.010 アムカ 0.07 アムカ	
乳	0.01	0.01			0.006 アムカ	
鶏の筋肉 その他の家きんの筋肉 鶏の脂肪 その他の家きんの脂肪 鶏の肝臓 その他の家きんの肝臓 鶏の腎臓 その他の家きんの腎臓 鶏の食用部位 その他の家きんの食用部分 鶏の卵 その他の家きんの卵	0.01 0.01 0.01 0.01 0.01 0.01 0.01 0.01 0.01 0.01 0.01 0.01	0.01 0.01 0.01 0.01 0.01 0.01 0.01 0.01 0.01 0.01 0.01 0.01			0.01 オーストラリア 0.01 オーストラリア 0.01 オーストラリア 0.01 オーストラリア 0.01 オーストラリア 0.01 オーストラリア 0.01 オーストラリア 0.01 オーストラリア 0.01 オーストラリア 0.01 オーストラリア 0.01 オーストラリア 0.01 オーストラリア	
魚介類	0.08					

【】で示した結果等については、海外で実施された作物残留試験成績を示した。

(#) これらの作物残留試験は、申請の範囲内で試験が行われていない

(\$)印で示した作物については、最高の値を示した括弧内に示す条件において得られた値を採用した。

(別紙3)

アズキシストロビン推定摂取量 (単位: $\mu\text{g}/\text{人}/\text{day}$)

食品群	基準値案 (ppm)	国民平均 TMDI	幼小児 (1~6歳) TMDI	妊婦 TMDI	高齢者 (65歳以上) TMDI
米(玄米)	0.2	37.0	19.5	27.9	37.8
小麦	0.5	58.4	41.2	61.7	41.7
大麦	0.3	1.8	0.0	0.1	1.1
ライ麦	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
とうもろこし	0.05	0.1	0.2	0.1	0.0
その他の穀類	0.3	0.1	0.1	0.2	0.1
大豆	0.5	28.1	16.9	22.8	29.4
小豆類	0.5	0.7	0.3	0.1	1.4
えんどう	0.5	0.2	0.1	0.2	0.2
そら豆	0.5	0.1	0.1	0.1	0.2
らつかせい	0.2	0.1	0.1	0.0	0.1
その他の豆類	0.5	0.1	0.1	0.1	0.1
ばれいしよ	0.05	1.8	1.1	2.0	1.4
さといも類(やつがしらを含む)	0.03	0.3	0.2	0.2	0.5
かんしよ	0.03	0.5	0.5	0.4	0.5
やまいも(長いも)	0.03	0.1	0.0	0.0	0.1
その他のいも類	0.03	0.0	0.0	0.0	0.0
てんさい	0.5	2.3	1.9	1.7	2.0
だいこん類(ラディッシュを含む)の根	0.5	22.5	9.4	14.4	29.3
だいこん類(ラディッシュを含む)の葉	50	110.0	25.0	45.0	170.0
かぶ類の根	0.5	1.3	0.4	0.4	2.1
かぶ類の葉	15	7.5	1.5	4.5	16.5
西洋わさび	0.5	0.1	0.1	0.1	0.1
クレソン	3.0	0.3	0.3	0.3	0.3
はくさい	3.0	88.2	30.9	65.7	95.1
キャベツ	3.0	68.4	29.4	68.7	59.7
芽キャベツ	3.0	0.3	0.3	0.3	0.3
ケール	5	0.5	0.5	0.5	0.5
こまつな	5	21.5	10.0	8.0	29.5
きょうな	5	1.5	0.5	0.5	1.5
チンゲンサイ	5	7.0	1.5	5.0	9.5
カリフラワー	3.0	1.2	0.3	0.3	1.2
ブロッコリー	3.0	13.5	8.4	14.1	12.3
その他のあぶらな科野菜	30	63.0	9.0	6.0	93.0
ごぼう	0.5	2.3	0.8	1.2	2.6
サルシフィー	0.5	0.1	0.1	0.1	0.1
アーティチョーク	4.0	0.4	0.4	0.4	0.4
チコリ	30	3.0	3.0	3.0	3.0
エンダイブ	30	3.0	3.0	3.0	3.0
しゅんぎく	30	75.0	18.0	57.0	111.0
レタス(サラダ菜及びちしゃを含む)	30	183.0	75.0	192.0	126.0
その他のきく科野菜	50	20.0	5.0	25.0	35.0
たまねぎ	0.1	3.0	1.9	3.3	2.3
ねぎ(リーキを含む)	7.5	84.8	33.8	61.5	101.3
にんにく	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
にら	5	8.0	3.5	3.5	8.0
アスパラガス	2	1.8	0.6	0.8	1.4
わけぎ	1	0.2	0.1	0.1	0.3
その他のゆり科野菜	50	45.0	5.0	5.0	90.0
にんじん	0.5	12.3	8.2	12.6	11.2
パースニップ	0.5	0.1	0.1	0.1	0.1
パセリ	30	3.0	3.0	3.0	3.0
セロリ	30	12.0	3.0	9.0	12.0
みつば	5	1.0	0.5	0.5	1.0
その他のせり科野菜	50	5.0	5.0	5.0	15.0
トマト	1	24.3	16.9	24.5	18.9
ピーマン	3	13.2	6.0	5.7	11.1
なす	2	8.0	1.8	6.6	11.4
その他のなす科野菜	2.0	0.4	0.2	0.2	0.6

食品群	基準値案 (ppm)	国民平均 TMDI	幼小児 (1~6歳) TMDI	妊婦 TMDI	高齢者 (65歳以上) TMDI
きゅうり (ガーキンを含む)	1	16.3	8.2	10.1	16.6
かぼちや (スカッシュを含む)	1	9.4	5.8	6.9	11.5
しろうり	1	0.3	0.1	0.1	0.8
すいか	1	0.1	0.1	0.1	0.1
メロン類果実	1	0.4	0.3	0.1	0.3
まくわうり	1	0.1	0.1	0.1	0.1
その他のうり科野菜	1	0.5	0.1	2.3	0.7
ほうれんそう	30	561.0	303.0	522.0	651.0
オクラ	3	0.9	0.6	0.6	0.9
しょうが	0.03	0.0	0.0	0.0	0.0
未成熟えんどう	3.0	1.8	0.6	2.1	1.8
未成熟いんげん	3.0	5.7	3.6	5.4	5.4
えだまめ	3.0	0.3	0.3	0.3	0.3
その他の野菜	50	630.0	485.0	480.0	610.0
みかん	1.0	41.6	35.4	45.8	42.6
なつみかんの果実全体	1.0	0.1	0.1	0.1	0.1
レモン	1.0	0.3	0.2	0.3	0.3
オレンジ (ネーブルオレンジを含む)	1.0	0.4	0.6	0.8	0.2
グレープフルーツ	1.0	1.2	0.4	2.1	0.8
ライム	1.0	0.1	0.1	0.1	0.1
その他のかんきつ類果実	1.0	0.4	0.1	0.1	0.6
りんご	2	70.6	72.4	60.0	71.2
日本なし	2	10.2	8.8	10.6	10.2
西洋なし	2	0.2	0.2	0.2	0.2
びわ	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
もも	1.5	0.8	1.1	6.0	0.2
ネクタリン	3	0.3	0.3	0.3	0.3
アンズ (アプリコットを含む)	1.5	0.2	0.2	0.2	0.2
スモモ (プルーンを含む)	1.5	0.3	0.2	2.1	0.3
うめ	1.5	1.7	0.5	2.1	2.4
おうとう (チェリーを含む)	3	0.3	0.3	0.3	0.3
いちご	3	0.9	1.2	0.3	0.3
ラズベリー	5.0	0.5	0.5	0.5	0.5
ブラックベリー	5.0	0.5	0.5	0.5	0.5
ブルーベリー	3.0	0.3	0.3	0.3	0.3
クランベリー	0.5	0.1	0.1	0.1	0.1
ハックルベリー	3.0	0.3	0.3	0.3	0.3
その他のベリー類果実	5.0	0.5	0.5	0.5	0.5
ぶどう	10	58.0	44.0	16.0	38.0
かき	1	31.4	8.0	21.5	49.6
バナナ	2.0	25.2	22.6	17.4	35.4
パパイヤ	2.0	0.2	0.2	0.2	0.2
アボカド	1	0.2	0.1	0.1	0.2
グアバ	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
マンゴー	1	0.1	0.1	0.1	0.1
パッションフルーツ	1	0.1	0.1	0.1	0.1
その他の果実	3	11.7	17.7	4.2	5.1
べにばなの種子	1.0	0.1	0.1	0.1	0.1
綿実	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
なたね	1	8.4	5.0	8.2	5.3
ぎんなん	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
くり	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
ペカン	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
アーモンド	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
クルミ	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
その他のナッツ類	0.5	0.1	0.1	0.1	0.1
茶	10	30.0	14.0	35.0	43.0
コーヒー豆	0.05	0.1	0.0	0.1	0.1
ホップ	20	2.0	2.0	2.0	2.0
その他のスパイス	30	3.0	3.0	3.0	3.0
その他のハーブ	50	5.0	5.0	5.0	5.0

食品群	基準値案 (ppm)	国民平均 TMDI	幼小児 (1~6歳) TMDI	妊婦 TMDI	高齢者 (65歳以上) TMDI
陸棲哺乳類の肉類	0.3	17.3	9.9	18.2	17.3
陸棲哺乳類の乳類	0.01	1.4	2.0	1.8	1.4
家禽の肉類	0.01	0.2	0.2	0.2	0.2
家禽の卵類	0.01	0.4	0.3	0.4	0.4
魚介類	0.08	7.5	3.4	7.5	7.5
計		2608.0	1473.6	2078.9	2851.8
ADI比 (%)		27.2	51.8	20.8	29.2

高齢者については畜水産物の摂取量データが、妊婦については水産物の摂取量データがそれぞれないため、国民平均の摂取量を参考とした。

TMDI：理論最大1日摂取量 (Theoretical Maximum Daily Intake)

(参考)

これまでの経緯

- 平成10年 4月24日 初回農薬登録
- 平成16年11月16日 農林水産省から農薬適用拡大申請に係る連絡（だいこん、ピーマンに係る適用拡大申請）
- 平成16年11月30日 厚生労働大臣から食品安全委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
- 平成16年12月 9日 食品安全委員会（要請事項説明）
- 平成17年 2月 9日 第24回食品安全委員会農薬専門調査会
- 平成17年11月29日 残留基準値の告示
- 平成18年 7月18日 厚生労働大臣から食品安全委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について追加要請
- 平成18年 7月20日 食品安全委員会（要請事項説明）
- 平成18年10月16日 第5回食品安全委員会農薬専門調査会総合評価第二部会
- 平成18年11月 1日 第6回食品安全委員会農薬専門調査会幹事会
- 平成18年11月 9日 食品安全委員会における食品健康影響評価（案）の公表
- 平成18年11月24日 薬事・食品衛生審議会へ諮問
- 平成18年12月21日 食品安全委員会（報告）
- 平成18年12月21日 食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
- 平成19年 3月12日 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
- 平成19年 5月31日 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会
- 平成19年 9月18日 薬事・食品衛生審議会から答申
- 平成19年 9月21日 残留基準の告示
- 平成19年 9月21日 農林水産省より厚生労働省へ基準設定依頼（魚介類）
- 平成19年10月 2日 厚生労働大臣から食品安全委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
- 平成19年10月 4日 食品安全委員会（要請事項説明）
- 平成19年11月 7日 第30回食品安全委員会農薬専門調査会幹事会
- 平成19年11月15日 食品安全委員会（報告）
- 平成19年11月15日 食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
- 平成19年12月 6日 薬事・食品衛生審議会へ諮問
- 平成19年12月12日 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

●薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

[委員]

青木 宙	東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科教授
井上 松久	北里大学副学長
○大野 泰雄	国立医薬品食品衛生研究所副所長
尾崎 博	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
加藤 保博	財団法人残留農薬研究所理事
斉藤 貢一	星薬科大学薬品分析化学教室准教授
佐々木 久美子	国立医薬品食品衛生研究所客員研究員
志賀 正和	元独立行政法人農業技術研究機構中央農業総合研究センター虫害防除部長
豊田 正武	実践女子大学生生活科学部生活基礎化学研究室教授
米谷 民雄	国立医薬品食品衛生研究所食品部長
山内 明子	日本生活協同組合連合会組織推進本部 本部長
山添 康	東北大学大学院薬学研究科医療薬学講座薬物動態学分野教授
吉池 信男	独立行政法人国立健康・栄養研究所研究企画評価主幹
鰐淵 英機	大阪市立大学大学院医学研究科都市環境病理学教授

(○：部会長)